

13 CLIMATE ACTION



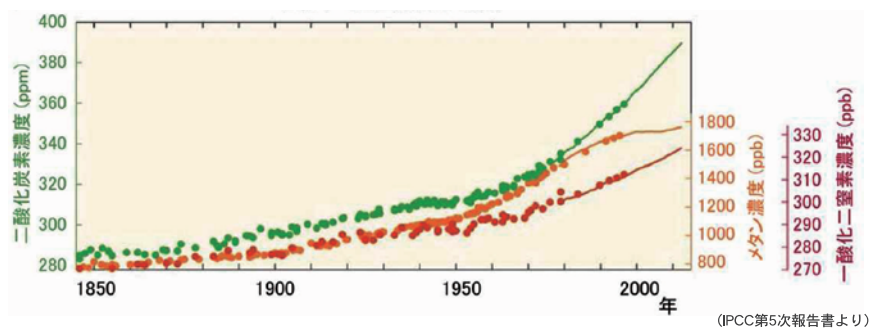
〈目標 13〉 気候変動へのアクション

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

目標 13 の主な内容

- すべての国で、気候関連災害や自然災害に対するレジリエンスや適応力を強化する。
- 気候変動対策を国家政策・戦略・計画に盛り込む。
- 気候変動の緩和、適応、影響軽減や早期警戒に関する教育啓発により人的能力や制度機能を改善する。
- 気候変動枠組条約で合意したことを実施し、緑の気候基金を本格稼働させる。

世界平均温室効果ガス濃度



気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が2014年に発表した第5次報告書には、気候変動の及ぼすさまざまな影響が紹介されています。

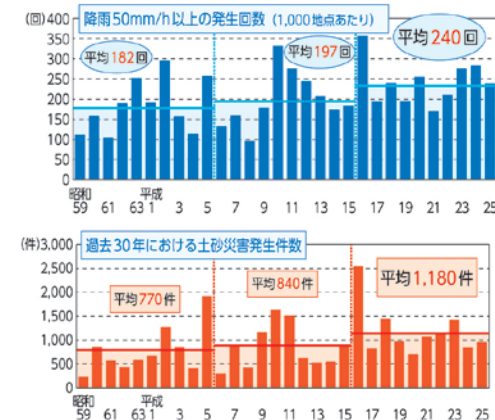
問題の背景

- 全世界の二酸化炭素排出量は1990年以来、50%近く増えています。
- 海洋では、人為的に排出された二酸化炭素の30%を吸収するため、酸性化が進んでいます。
- 気候変動により最も大きな影響が及ぶのは、最も貧しく、社会的に弱い立場に置かれた人々です。
- 1901年から2010年にかけ、地球の平均海面は0.19[0.17~0.21]メートル上昇しています。

日本の状況

- 日本沿岸の熱帯・亜熱帯サンゴ礁の分布に適する海域は、2020-30年代に半減、2030-40年代に消失すると予測されています。
- 日最高気温が35℃以上の猛暑日は1931年から2013年で明瞭に増加傾向が見られています。
- 平均海面水位が59cm上昇した場合、影響を受ける日本三大湾(東京湾・大阪湾・伊勢湾)のゼロメートル地帯の面積は約5割増大すると予測されています。
- デング熱を媒介するヒトスジシマカの生息域が拡大しています。

豪雨と土砂災害の発生数の推移



豪雨や土砂災害などの自然災害は、増加傾向にあり、今後益々その対策が重要となってきます。

(国土交通省資料より)



地域からのヒント

群馬県では、群馬大学と協働で「災害図上訓練」(住民主体による土砂災害防災マップづくり)を実施してきました。地域住民が地図に過去に災害が起こった場所や災害の前兆現象を書き込み、地域内の危険箇所を洗い出して地域独自の災害マップをつくり、自主避難ルールについても話し合います。現在は県内27市町村すべてのモデル地区で災害図上訓練が実施されている他、ハザードマップは行政のホームページでも公開されています。

住民主体のハザードマップづくり



みなかみ町の取り組みは、国交省「気候変動に対応する具体的な対応策について(事例集)」にも紹介されている